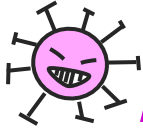


感染症に気をつけよう!!

2023年5月号

横浜市衛生研究所
感染症情報センター 5月10日発行



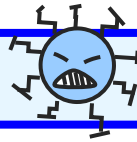
横浜市内の感染症流行状況



感染症*	流行状況		説明【解説付き既刊号等】 ← クリック
梅毒**	発生	横ばい	20~30代を中心にして、報告数の多い状況が続いています。【政府広報動画】【無料匿名検査】
インフルエンザ**	散発	減少	4月下旬に流行開始レベルを下回りましたが、まだ、散発的に患者報告はみられます。
新型コロナウイルス感染症*	流行	やや増加	全国の今後の見通しでは、夏に向けて、一定程度の感染拡大を想定する必要があります。**

* 国立感染症研究所 ** 厚生労働省

今、復習しておきたい



5類感染症

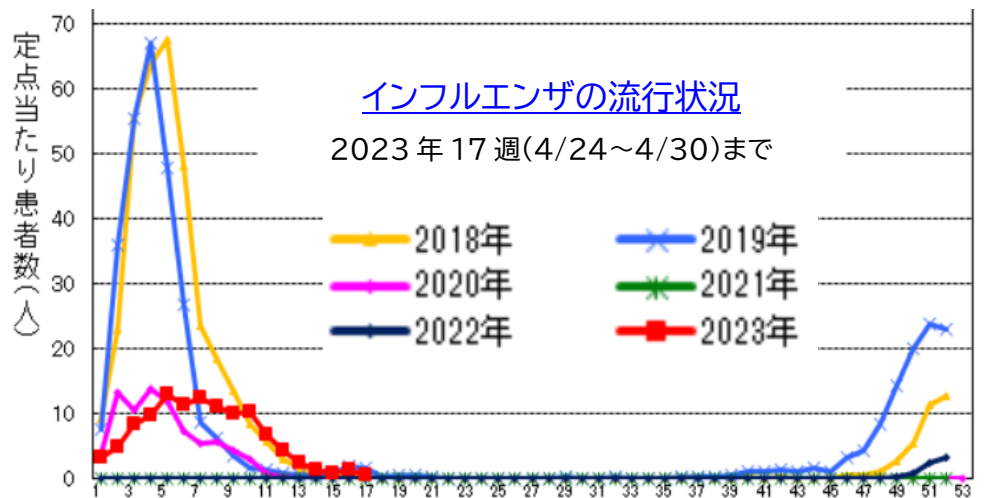
法律では**、病原体の感染力や感染した場合の病状の重さなどに応じて、感染症を1類~5類等に分類しているでしょ。インフルエンザや新型コロナなどの5類感染症は、流行状況をどのように把握しているの？



あらかじめ定められた定点医療機関(横浜市内では153か所)から、7日間ごとに報告される患者数の平均値(定点当たり患者数*)を用いるよ。



※ 例えばインフルエンザで「定点当たり患者数1.00」とは、定点医療機関で1週間に「平均1人のインフルエンザの患者が受診した」ということ。



この方法で調査を続ければ、流行の開始に向けて予防対策に役立つね。

